

資料1「(仮称)小平市第四次長期総合計画 素案(案)たたき台」に対する審議会の意見

【序論(P1～P21)について】

1	P1	『計画策定の趣旨』は分かりやすくまとめられている。視点として、「国際社会(グローバル化)」と「高度情報社会(技術革新)」について触れておくことも必要ではないか。
2	P1	「第四次長期総合計画策定の視点」の2行目、「～暮らしと仕事と学びそして～」→「～暮らしと仕事と学び、そして～」と句読点を入れる。
3	P1	「第四次長期総合計画策定の視点」の3行目、「この、豊かな～」→「この豊かな～」と句読点を削除。
4	P1	「第四次長期総合計画策定の視点」の2点目、「地域を共に創る」は重要な視点。
5	P2	真ん中の図は必要ないのでは。
6	P2	『計画期間と構成』の上段、市制施行100周年を見据えることの説明と図について、意図していることが伝わらないように感じた。
7	P3	『小平市のあゆみ』について、良くまとまっていて分かりやすい。
8	P3	小平市のあゆみの年表とともに、変遷の様子を表すマップがほしい。とくに近世から現代まで①江戸時代(街道・上水・用水・新田開発)②昭和初期(鉄道・学園都市開発)③戦中(軍施設)戦後(大学・大規模施設)3種類の時代区分のマップ。未来の姿を描く根拠となる。
9	P3	「原始から中世」の上から1行目、「～小平には3万数千年前の～」→「～小平には3万数千年(から1万5千年)前の～」
10	P3	「近世から近代」の上から5行目、「～市制・町村制の施行によりこれら～」→「～市制・町村制の施行により、これら～」と句読点を入れる。
11	P3,4	P3「原始から中世」の上から3行目、「武蔵野台地上」及びP4「地勢」の上から1行目、「武蔵野台地上」とあるが、P4右下の網掛け部分は「武蔵野台地」となっている。「上」は削除しても良いのでは。
12	P4	『小平市の特性』の上から4行目までの記述からは、その後紹介される内容が想像できない。
13	P4	小平市の地勢の特徴である「武蔵野台地のほぼ中央」を視覚的に表すために、等高線マップまたは地形模型などがほしい。模型は多摩六都科学館の展示を活用できる。
14	P4	「地勢」の上から1行目及び2行目、「位置し」と2度出てくるので、後の方を「あり」と変えてみてはどうか。
15	P4	右下の網掛けの中、「～高齢者の健康維持にもつながる」は、高齢者だけとは限らない。
16	P5	自然環境については写真も必要だが、玉川上水、野火止用水、狭山・境緑道、都立小金井公園などグリーンインフラのマップを掲載すべき。緑被率や緑地率などの他の自治体と比較も。
17	P5	「自然環境」の上から2行目、「～「都立小金井公園」を結ぶ～」→「～「都立小金井公園」を結び、～」と一旦区切る。
18	P5	「自然環境」の上から3行目に「～に認証され～」、上から4行目に「～に認定され～」とあるが、認証と認定の違いは。
19	P5	農地が「景観創出」にだけ着目されているが、都市農地の多面的機能が注目され、保全と有効活用の動きがある中で、「交流創出」、「食育・教育」、「地産地消」、「環境保全」、「防災」機能にも触れておきたい。農地はP8の「地域資源」に移し、体験農園の写真を入れてはどうか。P5には代わりに、用水網を入れてはどうか。
20	P5	右下の網掛けの中、「・グリーンロードなどの人の流れる場所で～」は「・グリーンロードなど人の流れのある場所で～」又は「・グリーンロードなど多くの人が往来する場所で～」といった表現ではどうか。
21	P5	右下の網掛けの中、「～家族で観光できるまち」は「住民が」又は「市民誰もが」といった表現ではどうか。
22	P6	図について、駅名が読みづらい。
23	P7	「学園都市」について、学生で活気あるイメージを想定するならば、教育という観点での文科省の指定する学校以外の教育機関(警察学校や陸上自衛隊小平学校など)を盛り込むことはできないだろうか。
24	P7	大正末期の学園都市構想は実は時間をかけて実現されてきたといえる。高校、大学、大学校などがポイントされたマップが有効。他自治体と比較も。
25	P7	大学校についても言及できないか。

26	P7	上から5行目、「現在では5つの大学や～」とあるが、大学校も含めてほしい。
27	P7	上から5行目、「現在では5つの大学や～」とあるが、3つの大学校を加える。
28	P7	上から7行目、「～地域にとって重要な資源です。」は「～地域の活性化の一端を担っています。」といった表現ではどうか。
29	P7	上から10行目、「～幅広い年齢層で活動しているよさこいやダンスの発表会である～」は「～幅広い年齢層が、よさこいやダンスの発表を行う～」といった表現ではどうか。
30	P7	下から2行目、「～若い力が躍動しまちの～」→「～若い力が躍動し、まちの～」又は「若い力が躍動し」を削除。「幅広い年齢層」と前述があるので。
31	P7	右下の網掛けの中、「大学が多様にあり、～」は「多様な大学、大学校があり、～」とする。
32	P8	写真の昭和感が強すぎる。ママさんが活躍するハンドメイドマルシェや、たけのこ公園の灯りまつりの写真を使ってはどうか。
33	P8	丸ポストの写真をもう少し大きくできないか。
34	P8	津田梅子の写真は何らかの形で掲載してほしい。
35	P8	東京都指定史跡とされている鈴木遺跡の写真に掲載すると良いのではないか。
36	P8	平櫛田中彫刻美術館に鷺草が植えたあったかと思うが、写真を掲載することはできないか。鷺草については希少価値の高い植物であり、その植物が小平市にあるということだけで文化的な価値が高まる。
37	P8	地域資源としての短冊形農地、屋敷林は写真だけでなく、マップ表現は必須。今後の計画の根拠としても必要ではないか。
38	P8	上から2行目、「～屋敷林や短冊形の農地などの歴史的景観、～」は「～屋敷林や短冊形の農地などの風土に培われた食文化、～」といった表現ではどうか。
39	P8	右下の網掛けの中、「お祭りが多く、～」とあるが、どういったものを指しているのか。
40	P9	「協働の気運」は内容が分かりやすい。
41	P9	「協働の気運」は語句の意味合いが抽象的過ぎて伝わりづらい気がする。官民協働なのか、地域のつながりなのか、もう少しセクションを分けても良いと思われる。
42	P9	「協働の気運」の年表があるとよい。
43	P9	上から1行目、「～「沼さらい」は、・・・清掃する活動です。」を「～「沼さらい」と呼ばれる清掃活動では、用水路沿いの住民や自治会などが地域の力を結集して行っています。」とする。沼さらいという言葉を知らなかったため、先に説明があると良い。
44	P9	上から5行目、「～小学校通学区域を単位に再編～」は「～小学校通学区域を単位として再編～」といった表現ではどうか。
45	P9	「こだいらブルーベリーリーグ」は、P7の「学園都市」にまとめた方が統一感がある。代わりに、「みんなでつくる音楽祭」を入れてはどうか。（世代、性別、障がいなどの境界を越えて市民が一体となりつくりあげるD&I協働型音楽祭）
46	P9	「こだいらブルーベリーリーグ」を行政の先導により大きく発展させ、官学民（国、都、IT、ベンチャー企業、金融機関、市内及び都内企業等々）が連携してコンソーシアムを構築し、内閣府が進めようとしている「スタートアップ・エコシステムのミニ版」を推進していけると、新たな視点からの小平の活力にも結びつく。企業誘致も重要な課題であるが、若者を中心とした創業支援（スタートアップ）の仕組みを広域の視点から捉え直し、呼び込むのではなく創り上げる発想を持って取り組むことが大切。
47	P11	『第3次長期総合計画のふりかえり』は、分野ごとに象徴的な施設等の写真がほしい。
48	P11	『■安全・安心で、いきいきとしたまち（地域・安全・生活・文化）』では、小平市避難行動要支援者登録名簿を年に1度更新し、新たな登録者にはキットの配布など、災害対策に取り組んできた。今後も継続と更なる充実を希望する。
49	P11	『■安全・安心で、いきいきとしたまち（地域・安全・生活・文化）』の実施した主な施策等の中の上から2行目、「あすぴあ」と括弧をつける。「居場所」は括弧は必要？
50	P11	『■安全・安心で、いきいきとしたまち（地域・安全・生活・文化）』の実施した主な施策等の中の下から5行目、「～締結数の増など市、防災関係機関～」→「～締結数の増など、市や防災関係機関～」と句読点を入れて、句読点を「や」にする。

51	P12	『■健康で、はつらつとしたまち(次世代育成・健康福祉・生涯学習)』では、小学校・中学校連携によるコミュニティスクールの運営が行われている。
52	P12	『■住みやすく、希望のあるまち(都市基盤・交通・産業)』の実施した主な施策等中の下から3行目、「●「こだいら観光まちづくり協会」が設立～」→「●「こだいら観光まちづくり協会」を設立～」
53	P12	『■健全で、進化するまち(地方自治・行財政)』の実施した主な施策等中の下から2行目、「～音声広報等様々な～」→「～音声広報等、様々な～」と句読点を入れる。
54	P13	国力を維持する生産年齢人口が減少すると、日本での農業産物・工業製品の生産が困難になり、今までの生活レベルを維持できなくなる。現状でも農業産物・工業製品は輸入に頼っている部分も多いが、将来は国力低下により輸入も困難になる懸念がある。また、高齢者の増大に伴い、高齢者の独居比率も上昇。そのため、介護に携わる人がより多く必要になり、生産年齢人口のうち生産を行う人口がさらに減少する。そのため地域のコミュニティを利用し、時間に余裕がある元気な高齢者を介護に活用するとともに高齢者の健康寿命延伸が必要と思われる。
55	P17	自然災害ではないが、危機管理という観点から、新型コロナウイルスへの対応を追記できないか。
56	P17	安全安心分野への引き続きの充実が必要。スーパー台風、強風や豪雨による被害の多発、新型コロナウイルス感染症などの新興感染症も大変大きな問題となっており、これらに対してどのような対策を行うのか、関係機関と検討し早期の実行が必要である。
57	P17	小平市のハザードマップがあれば掲載する。
58	P18	用語の説明がされているが、どのような方向性で取り組んでいくのか記述されていない。スマート自治体への転換、オープンデータの取組、テレワーク、郊外型サテライトオフィスを活用した、場所に縛られない柔軟な働き方の確保、などイメージしやすい説明を追記したい。
59	P21	「行財政再構築プラン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を一本化することは、委員や事務局の事務負担の軽減や各計画の進行管理の重複削減など、メリットは大きい。
60	P21	「行財政再構築プラン」を一本化することについて、具体的にどのように長期総合計画に含まれていくのか見づらいように思う。13ページから16ページで問題提起はされているものの、3つの基本目標(9つの基本方針)を実現するために、行財政をどのように再構築するのか、アクションや位置付けを明確にするべきではないか。
61	P21	「行財政再構築プラン」の方針で、「②情報の共有と双方向のコミュニケーション」に触れているが、どのように市民に伝えるか言及されていない。成果を伝えることは、新しい支援者を増やし、更なる成果を生み出すために必要である。広聴広報計画やコミュニケーターの設置検討なども、計画を推進するために重要な点であることを理解されたい。
62	P21	資金が枯渇すれば国・地方自治体も活動が制限される。そのため、無駄なことを省くとともに商工業発展のため、より進んだSociety5.0などテクノロジーの採用や環境づくりのサポートが必要。市も可能な限り民間に業務を委託、もしくは民間との協働を検討する必要がある。
63	P21	「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のうち、「しごと」はどのようなプランがあるのか。
64	P21	「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のキーワードは地域協働の推進、若い世代の結婚、出産・子育てとなっている。第四次長期総合計画と整合性を持たせるとともに、人口減少に対してさらに女性・外国人・高齢者の活躍を支援する必要がある。

【基本的な理念(P22)について】

1	リード文で「市民、事業者、行政＝まちづくりの主体」であるとしており、「自治基本条例前文」でも、「暮らしと仕事と学びそして文化の調和」とあるが、『基本的な理念』では、「事業者も主体であること」、「まちに仕事がある」、「産業振興」という観点が弱いと感じる。
2	基本的な理念についてはおおむね良いと思われる。重要なのはその理念とめざす将来像、基本目標が密接に結びついていないと意味がないようにも思われるので、下の枠内で、序論で触れた内容(実際にどんな問題があり、どのような考え方、前提がここ10年で生まれたのかなど)をかいつまんて示す必要があると思われる。
3	基本的な理念は良い。視点として、地域や一人ひとりの多様性を前提として、人と地域、人と人とがつながり支えあうまちをめざすということを押さえておきたい。
4	基本的な理念の実現のために、障がいとなる面が多い(隣近所や小平市のまちづくりへの関心が低い住民が多いことも事実)。より具体的に対応していかざるを得ないのでは。
5	自治基本条例だけがすべてとは思わない。
6	小平市自治基本条例では「平和の実現」となっているが、新型コロナウイルスや自然災害等の危機に直面している今では、「安全安心」と言い換えた方が分かりやすい。

7	今、私たちは、これまでの英知と努力を尊重し、新しい物事のみにつまみつかれることなく、大切なものは受け継ぎ守りかつ育て、また時代の変化に対応する新たな政策を推進するためにも、「過去から現在、そして市制施行100周年まで小平のまちづくりを確実にしていく。」ということについて表現ができると良い。
8	「ひとづくり」、「くらしづくり」、「まちづくり」の言葉を入れると良いのではないかと。
9	「私たちは、…文化を育て、協働を通じて、次の世代に伝えます。」としてはどうか。
10	「こだいらの豊かな環境を守り、文化を育て」に違和感を感じる。長年培ってきた“水と緑豊かな環境”は守るべき対象であるが、価値観や生活様式が大きく転換するこれからの時代において、“豊かな暮らし”は新たに創造していく必要があるもの。
11	全体的に保守的なイメージ。「主体性」や「活力」をイメージできる言葉を入れたい。他人まかせではなく、市民自らが地域力や民活力となるのが計画の根底にある、と伝わるようにしたい。
12	色々議論したが、結局は現状維持的な印象を受ける。将来に向けて、より良いまちにするためのアピール・姿勢を示すフレーズを追加してはどうか。例えば、「そして、「こだいら」の豊かな環境を守り、文化を育て、魅力あるまちづくりを積重ねて、次の世代に伝えます。」など。
13	下の枠内について、「多様化」、「他者への思いやり(寄り添う)」、や過去から未来へのバトンを渡す(小平レガシーをいかす)という視点は大切であり、分かりやすい。一方で、他の箇所との重複感があり、書き方について工夫が必要。
14	下の枠内について、「隣人」を「相手」や「互いに」などと言い換えても良いかもしれない。
15	下の枠内について、「～他者への思いやりが根底であること」→「～他者への思いやりが根底にあること」
16	次世代に伝えたいものが何なのかが、(案)では、どこの自治体でも同じような一般的過ぎる表現になってしまっている。めざす将来像につながる具体的なキーワードがほしい。 安全安心に住み続けられるまちづくり →育ち、学び、働き、憩い、誇りをもって永く住み続けられるまちづくり 「こだいら」の豊かな環境を守り、文化を育て、次の世代に伝えます。 →「こだいら」の緑と水の豊かな歴史的環境を守り、協働気運の文化を育て、新しい地域資源を創り出し、次の世代に伝えます。

【めざす将来像(P23)について】

1	日本語で、具体的に、簡潔で分かりやすい言葉を使う。
2	第三次長期総合計画のように、短いフレーズだと覚えやすく良いが、複数のフレーズでも良い。
3	「基本的な理念」から導きだされるとともに、「取組の方向性」をまとめて一言で表したようなフレーズになると良い。
4	第三次長期総合計画の「躍動」、「進化」に対して、その後の小平市自治基本条例の制定が象徴的であるが、「みんな」で多様性を認めあひながら未来を活力とつながりを持って創っていくことが大切。
5	今後、10年以上の経過を考えていく中で、人々の生活様式そのものが変わっていく。常に健康長寿に即した仕組みや制度を模索する時代になってきている。このことを認識する住民をいかに増やしていくかが課題。それには、コミュニケーションができる場を提供することが、公的サービスの一つの施策であると考え。
6	成長から成熟へのパラダイムシフトに対応するために、個々人の多様性を認めてつながり、力を合わせて住みやすい小平市を創る。
7	SDGsのプロジェクトチームを作り(行政、市民)、重点分野とそのロードマップを作る。
8	成熟社会を前提とした将来像として入れたいキーワードは、「ひとりひとり」、「主体となり」、「心豊かな暮らし」、「社会や生き方の多様な変化」、「つながり」、「共に創る」等。
9	保全と整備開発の視点から、「調和」が重要なキーワードとなる。
10	古いものと新しいもの(ものとはいかないが考えなど)、多くの緑と利便性のための開発を共存させていくことが重要であると思う。そして将来性のある市を目指すのならば、働き方やICTをはじめとする技術の進化で(新型コロナウイルスも相まって)暮らしの様式も大きく変化する昨今では、新しい考えを、ある程度大胆に将来像に盛り込む必要があると考える。
11	3つの基本目標+自治体経営方針=4つの目標が明確なので、『めざす将来像』はこの4つの目標に仕分けする方がわかりやすい。
12	小平を「学ぶ」ことが大切である。

13	「共創」という言葉が良い。また学園都市や文化のまちである特性をいかせればと思う。
14	認めあい、共に創造するまち こだいら
15	時が流れ、生活が劇的に多様に変化しても、安全安心で暮らしやすく、誰もが活躍できるまち こだいら 緑や学園が多く、子育てしやすいまち 多様な全世代が認めあい、思いやり、共に支えあって、つながり、生きることのできるまち
16	情報の公開と共有は協働のまちづくりに不可欠な要素。 だれもがアクセスできる方法で情報が公開されている。
17	つながり・共に創り・認めあい・支えあい、多様性をいかし個々の考えや能力をいかにかすがすべての問題の解決の糸口になると思う。その際に、地域コミュニティを引っ張っていくひとづくりが大切で、有能な人の採用、スペシャリストの育成が重要。また、市も政策を施行するにあたって、担当替えがないスペシャリストの育成も検討してほしい。
18	「市内で生活が完結する暮らしやすいまち」を目指してほしい。そのために、市内の大学との連携を強め、学生と市民の協働により持続可能な小平を目指す。また、その先の将来のために、小中学生からの起業教育を行う必要がある。

【基本目標 I ひとづくり(P25)について】

1	ひとづくりの基本は、市民が永続的に住むことができる環境整備、住んで良かったという思い、地域に対する貢献度等が重要と考える。このことは、各世代にわたって十分な制度が備わっていて享受できることが約束されていなければならない。特に、60歳以上の市民は小平に住んでいながら地域に溶け込んでいない世代なので、再スタート市民であると認めあい、支えあい、助けあうという意味で、具体的には人が集うことのできる集会室や催し物を行える地域センターを活用していかなければならない。
2	多様性社会の実現を目指す。
3	教育、学びの視点の他に「遊び」の視点も入れたい。新たな価値には「遊び」の精神も必要。 →「新たな価値」には多様性と遊びがキーワードになる。多様で異質な人々が集まり、既存の価値観を変える遊びの精神が融合して、新しい価値を生み出していく。
4	方針1：子育て支援と教育、若者(大学生)と子ども達との協働事業。
5	方針1：失敗を恐れない気風、失敗を責めない気風の醸成。
6	方針1：妊娠期、出産期からの子育て期間を包括的に支援するシステムが必要。
7	方針1：新型コロナウイルスの影響などでますます「子どもの貧困」が危ぶまれる。健やかな育ちのための更なる方策が必要。
8	方針1：推計(小平市の人口年次推移)を見る限り、今後は人口減、生産年齢人口の割合減が見込まれることから、ひとづくりの目標にもあるようなことを生涯のプランとして体現できるような若者世代の移住を増やしていく必要性を感じる。個人的な印象ではあるが、多摩地域に移住を希望する若者世代が小平市に魅力を感じるかといわれれば、特に立川市、国分寺市、小金井市、武蔵野市、西東京市と比べてしまうと、相対的にみて魅力を感じにくいような印象がある。例に挙げたのはいずれも比較的発展している市ではあるが、それらのような発展は望まなくとも、若い世代に魅力を感じてもらえるような、特にソフト面での子育てや教育の具体的な支援制度や今あるものをいかした場づくりが重要になってくると感じる。こうしたものは幼稚園・保育園・学校といった枠組みにとらわれないことも必要だと思う。 そして、学園都市ということから、小平にやってくるきっかけをもつ若者がその学校などの周辺に愛着をもち、今後の移住の選択肢にすることも重要であると感じる。 (極めて個人的な話ではあるが、高校生活をすごした小金井市と毎日利用する高田馬場周辺には愛着がある。)
9	方針1： ・学校教育→「コミュニティスクール」は横断的なキーワードになる。「コミュニティスクール」に代わる新しい施策も今後登場するのではないだろうか。 ・若者活躍→大学と地域、大学と企業、大学と自治体の共同研究体制づくり、空き店舗や空き家を活用する若者の起業サポート、若者の定住サポート。地元不動産、開発事業者との連携が必要。
10	方針2：体力づくりはひとづくり。
11	方針2：再チャレンジのできる社会、リカレント教育への支援はもとより、働きながら学ぶ、学びの途中から一時休んで別の学びに向かう。それを基にスタートアップしたり起業できる。また、そういう社会の雰囲気を作っていく。行政は、そういった情報を集め、提供し、発信する。
12	方針2：異文化との触れ合いを通して、外国の人たちと相互に理解し共生していく。

13	方針2:ITを使いこなせる人を増やす。機器の貸与、あるいは機器を利用できる公共施設をつくることで、生活環境の差によるデバイドを減らしていく。
14	方針2:NPOで働く人たちの待遇を改善することが、NPOで働く人を増やすことにつながる。
15	方針2: 今後は長生きすることが普通になる中で、健康長寿の市民活動を推進していかなければならない。「老人のまち小平」から「健康長寿のまち小平」に変えていかなければならない。新たな価値観の創造、自然豊かな小平市、緑多い小平市、心豊かな活動へとシフトしていかなければならない。
16	方針2:長寿時代に即した仕組みや制度、模索する時代に来ている。小平市に長年住み続けることが、その人がどう生きるかにつながってくるので、何もかも行政にしてもらうということより、どのように生きていくかで決まってくる。そこで初めて、行政がなすべきことが決まってくるのではないかな。
17	方針2:各世代を経過する中で自分自身の関係が変化していくので、柔軟に対応するようになることが必要。
18	方針2:職業能力開発総合大学校は、学食、図書館、フリースペースを地域に開放している。こいだいらブルーベリーリーグの各大学も地域に開放し、地域に開かれた真の学園都市を目指してほしい。
19	方針2:図書館の多機能化(DVDの貸し出し、鑑賞スペース、学習スペース、ほっとスペース等)。
20	方針2:将来性を語る上ではどうしても若者優先のようになってしまいが、子育てをおこなっている者、子育てなどが終わった者が常に学べるような機会は必要であると思う。こうした「学び」は必ずしも大学による高等教育にとどまらず、市民が少しでも成長できるような、予算をつぎ込まなくとも、市民が相互に学びあえるような場を提供できれば良いと思う。
21	方針2: ・生涯学習→大学の公開講座、図書館、美術館、グラウンドなどの利用促進。若者と地域住民の交流や協働プロジェクトの機会提供・推進。
22	方針3:未来のための郷土学習
23	方針3:ふるさと村、鈴木遺跡、平櫛田中彫刻美術館、小平を取り囲む緑など魅力的なものは幾つもあるが、残念ながら小平の郷土史も含め、市民の知名度はそこまで高いとは思えない。市主催かは記憶にないが10年ほど前に「こいだいらさんポスト」なるスタンプクイズラリーのようなもので、小平の歴史や地理を体験できた気がする。こうした市内を知るきっかけをもてるような施策があっても良いと感じる。
24	方針3: ・文化芸術の発展→横須賀市では、アーティスト支援の新しい試みをしている。 ・この構想に位置付ける歴史資源とは何か、具体的に記述すべき。または、これまでの文化の基本構想など関連施策を引用してはどうか。(それともこの構想に基づいて新たに計画するのか。) →東京都の風致地区に市内4か所(玉川上水、青梅街道、東京道、鈴木道)もが選定されているのに、施策にいかされていないのは残念すぎる。こうした枠組みをいかすことで、小平の固有な歴史資源、文化資源を相対的に受け継ぐことが可能になる。 →鈴木遺跡、平櫛田中彫刻美術館(齋藤素巖も含む)、神社、お寺、たからみちなどもポイントした、新しい歴史資源マップが必要。 →歴史資源は、ハードな施策に位置づけがなされないと、あっという間に失われる危険があるので注意したい。

【基本目標Ⅱくらしづくり(P26)について】

1	ビジョン:市民全員で、誰もが安心して共生できる暮らしを目指す。
2	方針4:障がい者を含め、男女平等、多文化共生社会を目指す。
3	方針4:障がいの有無、国籍の違いを越えて老若男女が互いに尊重し参画する社会の実現。
4	方針4:性別役割分担意識にとらわれず、自分らしい生き方や働き方を選択できるまち。男らしさ、女らしさなどの固定観念や社会規範の刷り込みにより、生きづらさを感じている人が多いと感じる。性別にかかわらず、自分らしい生き方や働き方を選択できる仕組みづくりが大切。
5	方針4:差別や暴力のない誰もが安心安全に暮らせるまち。DVやハラスメントなどを未然に防止するための啓発、相談支援体制、被害者の安全確保、自立支援などを強化し、困難を抱えた人のエンパワーメントを目指していく。
6	方針4:多様な性を認め合えるまち。性の多様性を尊重しあえる社会づくりが重要。理解を促すための啓発を行うとともに、LGBT(セクシュアルマイノリティ)の人々が直面する困難に対応する相談支援体制を整備する。SOGI(性的指向・性自認)に気づいて、性別違和を感じるのは就学前が25%との調査報告もあり、教員、保護者が学ぶ機会を設けることも大切。
7	方針4:多文化共生社会の実現に向けて、その意義を普及・啓発し、相互理解を図るために交流の機会を増やす。

8	方針4:女性が継続して働きやすく、それを周囲がサポートしやすい環境を整え続ける。性別、国籍、ハンディキャップ、文化等の違いを認めあい、互いに尊重しながら暮らすことができる。子どもの頃から互いの違い、個性を認め、尊重し思いやる優しい心を育てる場を与えていく。
9	方針4:医療に係る多職種の方にも、女性で活躍されている方は多くいる。男女共同参画は、男女ともお互いを認めあい・支えあうことで、労働力が減少する今後さらなる女性の活躍が求められている。しかし妊娠・出産・育児をサポートする仕組みが伴わなければ、さらに少子化が進む危険性がある。また、最近では外国の人も多く働いており、彼らの職場環境を整備し、生活習慣など文化も尊重することが、日本に定着してくれる要因と考えられる。
10	方針5:全世代を通して、つながり支えあう社会を目指す。
11	方針5:全ての人を支え、支えられる関係の循環。行政と市民が協働・補完して支える暮らし。(高齢者が増加して財政上成り立たなくなるのを防ぐ。)
12	方針5:障がい者・高齢者に対する支援については、公による支援を除くと該当者をとりまく人々の心の問題である。手をさしのべる個々人の範囲での手助け等すべて、子どもの頃からの教育や環境に左右されてくる。様々な支えあいは幼い頃からの教育で。(福祉教育)
13	方針5:家族の形がさらに変化していくと考えられる(独居、ひとり親、老々介護、施設の整備等の増加)ので、サポート体制の強化は必要。全て予算ありきの実現、継続になるが、この分野は今後も、最も必要とされる。
14	方針5:民生委員、児童委員以外にも、地域ごとに助けあい、支えあえる仕組みづくりと継続。
15	方針5:健康寿命を延ばせるよう、要支援になる前に活躍してもらえる場所、機会を増やし提供する。また、介護が必要となった方とその家族が不安定な生活を送ることがないように、サポート体制を継続していくため優先順位、効率化、無駄の見直しを進めていく。
16	方針5:高齢者の介護を受ける期間を短くすることができれば、社会保障関係費の抑制が可能。そのため成年では生活習慣病の予防、高齢者では認知症やサルコペニア(筋量減少)の予防が重要と思われる。
17	方針5,6:医療・介護の分野では、地域包括ケアシステムがあり、認知症や身体の病気で介護を要する人を見守るシステムが構築されている。包括支援センターやケアマネージャーを中心に、医師、訪問看護師、リハビリなど医療職と訪問介護、通所介護の介護職が協力して介護を要する人を支えている。今後は、地域コミュニティや民生委員と協力し、要介護者の早期発見や人と会話することによる孤立化の防止・認知症予防が実行できるシステムの構築が必要。地域コミュニティの担い手には、元気な高齢者の参加があれば、システムとして上手く廻っていく。
18	方針6:地域力を活性化し、地域の輪を広げることを目指す。
19	方針6:誰もが役割と生きがいを持つ地域づくり。
20	方針6:地域コミュニティに関しては、大人になってからでは参画に抵抗が多いと思われる。幼い頃からの教育での実現に期待したい。
21	方針6:地域力を高め、安全安心に暮らすことができる地域をつくるには、個人それぞれが認めあい、活躍できる「居場所」があること。そこがよりどころとなって共生でき、絆も生まれ、支えあえる。それぞれの居場所を見つけて活動していくことが大切。居場所→小さなコミュニティ→コミュニティがどんどんつながりネットワークができて大きな地域力→まちの原動力、活性化となることが望ましい。

【基本目標Ⅲまちづくり(P27)について】

1	骨子案に対する意見では、一般分と小中学校分ともに、基本目標Ⅲ(まちづくり)の関心がとても高いことが分かった。
2	水やみどりが自然に存するだけでなく、小平のみんなのおかげで大切に守られ育っていき、世代を引き継がれていくことを強調してほしい。
3	「産業振興の重要性」という観点が弱いと感じる。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」も一本化することであり、付加価値を生む「仕事」がまちに存在する、育成していくことが重要であるということをもう少し強く表現できると良い。
4	新型コロナウイルスや自然災害への対応については、基本目標Ⅱ(くらしづくり)の様々な絆や地域力と合わせて、まちづくりにおいてもサポートしていくことが必要。
5	人口減社会、超高齢社会、グローバル化等々が進展し、変革を迎える中で、地域の多様な主体である「市民、団体、企業、大学、外国人、訪れる人など関係する人も含めて」全てが連携・協力して新たなまちの魅力や新しい価値を共に作り上げるという発想が必要。
6	方針7:グリーンロードを中心とした水と緑豊かな空間の保全。(東京の生物多様性を支える玉川上水と市内の用水路網等)
7	方針8:具体的なハードの整備計画を羅列するというよりも、「安全安心で住みやすいまち」という観点から分かりやすくまとめてほしい。

8	方針8:交通の利便性向上。再開発後は、集客できる商業施設、文化施設に。
9	方針8:市民に開かれた効率的で実効性のある公共施設運営の実施。(公園や公民館を平時から利用しやすくすることで、コミュニティ形成や災害時利用の促進)
10	方針8:周辺環境や生態系に配慮した市街地整備、道路整備、広聴広報活動の充実。
11	方針8:電車の駅が多いだけでなく、駅につながるバス路線や自転車での通行、道路の渋滞や運転のしやすさ、歩きやすさなどから、移動の利便性を図っていく。
12	方針8:(市街地整備、道路、交通)→(駅前周辺・市街地整備、道路、交通) 基本目標Ⅲに掲げられた「魅力あるまち」を実現する為に、方針8で明示することが相応しい。 「駅前周辺」を追加したのは、「小平市都市計画マスタープランの“各駅を中心とする生活圏形成”」との整合性のため。更に、若い世代の小平からの人口流出を抑えたと共に、小平への流入を促す為には、駅前周辺的美観と利便性を高めることが基本となる。市民アンケートでは「都市整備」、「商工業」への低い満足度が顕在化しており、その有効な改善策のひとつとなる。
13	方針8:南北道路の整備、小平市保有の未活用資産の活用。
14	方針9:にぎわい、しごと、産業活性化の観点から、落とすことのできないテーマであり、基本目標Ⅰ(ひとづくり)及び基本目標Ⅱ(くらしづくり)の取組と相まって推進していきたい。
15	方針9:都市農業の振興として、地産池消・食育の推進、農産物の高付加価値化・ブランド化、体験農園や農家レストラン・直売所整備による交流機会の創出、担い手の確保・育成を行うための新規就農支援、アグリツーリズム支援。
16	方針9:商店街や空き家の活用促進。(シェアオフィスやシェアキッチンの整備促進)
17	方針9:歩いて行ける近所の商店の充実や小平市内で手に入る必要がある。
18	方針9:「地域資源をいかし、活力と交流を生み出す」→「小平市の特性をいかし、活力と交流を生み出す」 序論では、“地域資源”とは「農産物、文化施設、歴史的景観、お祭りなど、津田梅子、丸ポストなど」を意味するが、方針9では“地域資源”だけではなく、“自然環境”、“交通”、“学園都市”、“地域資源”、“協働の気運”を含めたもつと幅広い“小平市の特性”をいかす取組が期待される。
19	方針9:コロナ禍でテレワークなど新しい働き方が進む中で、戦略的に商工農業及び観光を進める。平坦な土地と7つの駅をいかし、暮らしやすいまちへ、大型店と中小店が共存できる配置を行う必要がある。小平市のように人口が増えるまちは、テレワークにより潜在的な昼間人口が増える。ベッドタウンから働くことも含めて生活基盤のまちへの進化が必要である。

【基本目標横断プロジェクト(P28)について】

1	基本目標横断プロジェクトの2つの観点は良い。
2	発想は非常に良いものだと感じる。後は具体的施策とテーマ目標がいかに結びつくかであると思う。
3	基本目標Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにまたがる案件を『基本目標横断プロジェクト』として提示する方式は良い。
4	地域情報化の推進も基本目標横断プロジェクトの一つに入れる必要があると感じる。ひとづくりもくらしづくりもまちづくりも、情報技術は重要な要素となり、市民協働を進める際にこれまでリーチできていない市民層の取り込みも期待できる。
5	「暮らすまち」だけではなく、「そこで働くことができるまち」にするための、基本目標横断プロジェクトがほしい。住む+学ぶ+働く+遊ぶ→総合的・横断的なまちづくりへという視点。
6	「自助・共助・公助により、防災減災を強化します。」:情報の共有のために、全世帯にタブレット端末を配布する。これにより、様々な事象への敏速対応が可能になる。
7	「自助・共助・公助により、防災減災を強化します。」:市内の神社のお祭りの起源に疫病の蔓延を鎮めることがあったと聞く。この際、災害への備えとして、パンデミックを念頭においた記述があっても良いのでは。社会科学は歴史を踏まえることが重要であると言われている。
8	「自助・共助・公助により、防災減災を強化します。」:自然災害だけではなく、広義に新型コロナウイルスのような危機も含めて、小平市としてどのように対応していくか(危機管理、クライシス・マネジメント、BCPの観点)についても盛り込んでほしい。
9	「自助・共助・公助により、防災減災を強化します。」:今現実に行き始めている新型コロナウイルスに対する感染防止対策等を踏まえ、将来予期せぬことが起きた時の対策の方向性を市政としてどのように捉えていくのか、現時点で少しでも触れておきたい。

10	「自助・共助・公助により、防災減災を強化します。」:多重災害(大地震と大雨、大地震と感染症など)についても視野に入れる。
11	「自助・共助・公助により、防災減災を強化します。」:祖母から、関東大震災の時は竹やぶに避難したと聞き及んでいる。現代ではこのような避難場所はない。また、家族が少子化で、災害時には子どもとの連絡も取りづらくなる。そのような時こそ、ひとづくりを踏まえた地域づくり、まちづくりを考えていかなければならない。これをできるようにするためには、普段から活動することが重要。自治会等に参加する中で、自助・共助・公助により、防災減災を強化していかなければならない。特に、小平市の東側は、これから更に新たな住民が増えていく中で、小平市を知ること、地域参加していくことの重要性を、日々の集まりの中で共有していく必要がある。
12	「自助・共助・公助により、防災減災を強化します。」:特に社会的弱者と言われる障がい者、乳幼児、高齢者、外国人への配慮が必要。
13	「自助・共助・公助により、防災減災を強化します。」:市内小中学校では学校ごとに防災マニュアルを作成しているが、そのマニュアルを年に1度見直すと共に、各学校を会場として児童、生徒、近隣住民とともに防災訓練を実施し、災害に備える。
14	「新たな地域拠点とコミュニティの創出に取り組みます。」:具体的な場所や拠点数を入れていただきたい。
15	「新たな地域拠点とコミュニティの創出に取り組みます。」:具体的なイメージが分かるようになると良い。
16	「新たな地域拠点とコミュニティの創出に取り組みます。」:公共施設(図書館、公民館、地域センターなど)が情報の拠点となる。アナログでもIT活用でも良い。様々な情報をリンクさせ、家に居ながら情報が取れるのが理想。
17	「新たな地域拠点とコミュニティの創出に取り組みます。」:農業、産業、商業、環境、交通など全ての社会経済活動の基盤としての地域と人との融合。誰もが集える居場所の充実。
18	「新たな地域拠点とコミュニティの創出に取り組みます。」:共助による防災にもつながり、逆もまたしかりである。基本目標横断プロジェクトだけではなく個別計画にも言えることだが、それぞれがバラバラに行われることがないよう、総合的に俯瞰でき、全体最適に配慮し、分野横断で施策を展開する執行体制や市民との協働、周辺自治体との広域連携についても言及されたい。
19	「新たな地域拠点とコミュニティの創出に取り組みます。」:公共施設の活用もあるが、市内にある様々な空間、また多様な人々と手を取り合いながら、その空間をコミュニティとして活用する。公共施設を拠点としなくても、地域にある空間を活用して新たな地域コミュニティを創出する発想が重要であり、このことが逆に市の財政の過大な負担軽減につながる。
20	「新たな地域拠点とコミュニティの創出に取り組みます。」:学校を中心としたコミュニティづくり(コミュニティスクール)。防災拠点としての役割と子どもの見守り。世代間交流。
21	「新たな地域拠点とコミュニティの創出」:コミュニティスクール構想の発展と活用も必要。学校の建て替え更新の考え方に、積極的に横断的な視点と参加協働の視点を介入させるべき。そうでないと、公的な新たな地域拠点はつくりえない。
22	「新たな地域拠点とコミュニティの創出」:民間や協働の力の活用。民間や市民が起業するなどして新たな拠点を創出するサポートは、官民学の横断的なプロジェクトになる。
23	「新たな地域拠点とコミュニティの創出」:小平に多くのコミュニティがあり、活発に活動していると思われるが、外から見てどのような活動をしているかわからないことが多い。今後、SNSなども活用し情報発信をしっかりと行うとともに、コミュニティ同士の協働も重要と思われる。地域コミュニティや大学コミュニティが協働することにより、新しい可能性が開ける。また、コミュニティを紹介・支援する仕組みが市にあると良い。今後、コミュニティを中心とする共助・支えあいがすべての問題の解決の糸口になりうると思う。